

## 第1回 大田区基本構想審議会第1専門部会 議事要旨

日時	平成 19 年 10 月 11 日（木） 午前 10 時～12 時
会場	大田区役所 202 会議室
出席者	中井委員（部会長）、奥田委員、田中（常）委員、千原委員、富田委員、舟久保委員、星野委員（五十音順）

### 1 開会

### 2 部会長あいさつ

### 3 委員の紹介

- ・ 大田区だけではなく、周辺が目黒や川崎などもお手伝いさせて頂いている。
- ・ 建築とインテリアデザインが専門。最近はソフトの重要性を意識している。
- ・ 商工会議所、まちづくり推進委員会、観光、ブランド推進等に関わっている。
- ・ 大田区には 13 年住んでいる。20 代、30 代の女性の視点で考えたい
- ・ 地方と都市という観点を踏まえながら、大田区のあり方について議論したい。
- ・ 大田工業の現状は厳しいと言われているが、本当にそうか。我々が今やらなければならないことを真剣に考えたい。
- ・ これまでビジネスインキュベーションのお手伝いをしてきた。

### 4 専門部会長代理の指名

（中井部会長により、田中（常）部員が部会長代理に指名され、了承された）

### 5 庁内検討委員会第1作業部会長紹介

### 6 審議の進め方について

### 7 専門部会の議題と工程について

### 8 配付資料の説明

### 9 審議

#### 【大田区の都市構造と核となるまちづくり】

- ・ 蒲田は羽田の玄関としての機能を持っていない。まちのランドデザインができていないので、駅の改修も対処療法に留まっている。
- ・ 大森には再開発の動きがあるが、東西の交流ができていない（蒲田も同様）。
- ・ 長期的な議論とともに、今できることも必要。周辺で魅力的な再開発が進んでおり、まちをどうするか、羽田をどう取り込むのかを検討すべき。
- ・ 20、30 代女性の視点としては服などの魅力あるショップが蒲田に入って欲しい。

- ・ 浦和の駅ビルには区役所、映画館、店舗等が入り、バラエティに富んでいる。
- ・ 蒲田は駅も駅周辺も魅力を感じられない。川崎は商業集積が進み、賑わいを取り戻している。川崎と品川の間で蒲田はどういうイメージをもてばいいか。
- ・ 高度や容積率に制約があり、川崎・品川と同じことはできない。現状ではまちがごちゃごちゃしており、魅力に乏しい。羽田とのつながりも意識したい。
- ・ 大森は今の延長でいいと思うが、蒲田は発想転換が必要。地域核も、便利になった大岡山のような広域的なもの、近隣核的なものがありそうだ。
- ・ 大田区は工業に高いポテンシャルがあり、商業都市は無理がある。時代の中で変わる工業の中心が大森・蒲田。最近の開発は遊休化した土地を活用するが、蒲田にそうした土地はない。蒲田には羽田の玄関という役割もある。
- ・ 蒲蒲線では地域のイメージが強すぎる。一方、渋谷等とつなげる必要性も評価されない。多摩川空港線という位置づけで、都市計画と共に提示しないと説得力がない。横田とつなぐ話も含め、蒲田のあり方を再検証する必要がある。蒲蒲線の議論とまちのあり方をリンクする議論がなされていないのも課題。
- ・ 羽田空港拡張で利用者が増えた際、空港アクセスは問題になる。「蒲蒲線」ではなく、現状では不便な東京西部とのアクセス改善という位置づけが必要。
- ・ 蒲蒲線は単線でバイパスされるという見方もあり、利便性だけではまちとのリンクは難しい。交通が整備されないと、増加する就業人口の居住地も川崎や品川に取られる。羽田が国際空港だったとき、蒲田は 24 時間のまちだった。国際空港化は夜も使えるまちになるチャンスだが、そういう動きがない。
- ・ どこまで蒲田なのか。その範囲がよく分からない。
- ・ 中心市街地活性化を検討した際にエリア規定をしている。
- ・ 神奈川口や大師線活用の構想もあり、川崎が強力なライバルになる。そういう競争関係の中でアクセスの問題は考えるべき。
- ・ 川崎や大井町では住宅が増えているが、蒲田周辺はどうか。
- ・ ファンドがワンルームマンションを建て、路面店を浸食している。工場跡地はマンションになる傾向があるが、大きなロットな土地は手に入らない。
- ・ 蒲田周辺よりも多摩川や大鳥居・糎谷周辺などでマンションが増えている。
- ・ ワンルームは投資対象であり、良い住宅ストックができるかどうかは疑問。
- ・ 就業人口が増え、潜在的ニーズはある。ワンルームに住むのは単身者だろう。
- ・ ワンルームの問題は、老朽化すると若い方は転居し、独居の方が残ること。
- ・ ワンルームは駅近くに集中する。蒲田は商業だけでなく、住宅の視点も必要。
- ・ ファンドによる住宅整備が進む中で、商店街の路面をどうするかが課題。
- ・ 蒲田のイメージは何もしないと変わらない。地元の人が頑張るためには誰かが仕掛ける必要がある。
- ・ 区内の地主が区外のファンドに売らないよう、区で引き取れないか。

- ・ 高くて無理。しかし、商店街の一階は商店にするなど、どういうまちにするかのイメージがあれば対策はあると思う。
- ・ 借地が多く、土地を売るとなると、3倍ぐらいの値段でないと手放さない。
- ・ 農業の場合の市街化調整区域のようなことはできないか。
- ・ 住民がコンセンサスを取ればできると思う。
- ・ 地区計画も実際に実施するのは難しい。
- ・ まちづくり条例に関する提言も全体会であった。
- ・ 蒲田を中心にしてグランドデザインを書いていくことが大事。
- ・ 京急蒲田の商店街と JR 側の商店街をくっつけるという話はなかったか。
- ・ 京急側の再開発に向けて、つなげる話をもっていかなければと思っている。
- ・ 京急蒲田のまちづくり研究会に、JR 側は入らないのか。蒲田の最大の住民は、区役所。区役所が動かないとダメだ。蒲田を盛り立てるメッセージが必要。
- ・ 大森も重要。東口のロータリーを人工地盤の3層にするというのはどうか。
- ・ 大森駅周辺の整備計画はつくられたことはないのか。
- ・ 中心市街地をやろうと言うときに計画はされたと思うが、立ち消えになった。

#### 【大田区らしい魅力の再発見と活用】

- ・ 「アートストリート」プロジェクトを提案したい。生活道路や公園にアートを取り入れ、コミュニティの再構築をしたい。介護問題が深刻化すると、近くに散歩や買い物の場所がないと息詰まる。
- ・ 臨海部と多摩川、それに駅周辺については景観について意識したい。
- ・ 呑川についても、水質浄化や周辺の公園化等で、すぐれたものをつくりたい。ただし、民地が張り付いているので、何らかの仕掛けで土地の確保が必要。
- ・ 過剰な混沌は問題。まちの表情である景観が悪いのはまちが悪いということ。
- ・ 大森では景観マスタープランについて検討したことはある。
- ・ 田園調布以外で景観の話題はないか。多摩川では川崎と協力する必要がある。
- ・ 工場の空きスペースなどをアーティストに貸すといった例はないか。
- ・ アーティストを招いてコンテンツを呼ぶ仕掛けが欲しい。「多摩川線アトラインプロジェクト」も工場とアートとの交流環境づくりをめざしている。
- ・ 大田区の工場にはアーティストックな製品が多い。アーティスト・イン・レジデンスの形で滞在してもらい、産業とアートがコラボレーションし、アートから技術や産業を世界に発信したい。
- ・ 田園調布せせらぎ公園や大田区民プラザの隣接地、羽田などにそうした彫刻などを置けば、大田区の特徴が出せる。
- ・ アートによるまちづくりも役所主導より地元主導の方が根付きやすい。芸術系はトップだけでなく裾野を固める練習場所等の施設が重要。
- ・ 工業アパートの良さを活かした成功事例はあるのか。

- ・ デザインに対する考え方は多様で、金型の打抜の配列をデザインと思う人もいる。住宅が広く、芸術作品を飾る需要が高いカンザス州ではアート系の大学やギャラリーが多い。ロードアイランド州ではアート系とビジネス系の大学が連携し、アートクラフトを名産にする取組をしている。
- ・ 大田区には鋳物やアクリルなど高い技術を持った工場がある。アーティストを通じて技術が市場とつながる。大田区でつくった彫刻を羽田に展示したい。
- ・ 大田区では水辺と緑も大変魅力的な要素。池上・馬込・洗足池を結んだ地域を、観光として使えないかと考えている。

#### 【安全・安心で暮らしやすいまちづくり】

- ・ 安心して老後を過ごしたいという思いが区民には強い。地震、風水害、防犯対策について、今より一歩進んだ対策を立てる必要がある。
- ・ 蒲田駅は全然安全、安心ではない。バリアフリーでもない。安全に動けない。
- ・ 自転車対策を考えないと、高齢者や子ども連れにとって危ないまちになる。ただ、まちが賑わうためには自転車も重要なので、自転車置き場が重要。
- ・ 地下式駐輪場の機械は、区の自転車処理に要する費用と比較すれば高くない。
- ・ 道路への設置は地下埋設物の関係で費用がかかるが、民地にすれば安くなる。
- ・ デザイン次第では、自転車を線路上に上げることが可能ではないか。
- ・ 駐輪場の地下設置、病院拡張等で住みよいまちになった大岡山がモデルでは。
- ・ 安全なまちにしていくための社会実験を大田区はやったことがあるか。
- ・ 防犯カメラに取り組み、効果があるのでエリアを拡大したいという話が出ている。背景には国際化時の外国人対応のために先手を打つということがある。
- ・ 自転車は単に排除するのではなく、うまく使ってもらうという視点が必要。最近増えている電動車椅子などの新しい移動手段への配慮も必要な視点だ。
- ・ これからはアクティブな車イスの方が増えるだろう。
- ・ 避難所は生理用品が足りない。女性や高齢者も入れて防災を検討して欲しい。
- ・ ゆっくり歩きやすい、車椅子でも通りやすい生活道路を確保することが重要。
- ・ 電柱の地中化、車を止める時間を設ける、といった工夫が必要。

#### 10 次回以降の第1専門部会日程

以上